

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 11 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870104209
事業所名 (ユニット名)	(株)ケアジャパン グループホームハッピー余戸 よしこハウス I
記入者(管理者) 氏名	佐伯 知世
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 23 日

<p>【事業所理念】</p> <p>ほのぼのと安心できる心地良い我が家・・・。 主役はあなたです。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・I、IIの関りについて同じホームなのに接点が少ない。その課題について合同ミーティングを行ったり、レクリエーションの研修など、I、II 合同で入居者も交えお楽しみ会を行った。</p> <p>「介護方針の統一を図る」との事で、言葉遣いや接遇面等の再確認を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所には、古民家を改修したユニット「よしこⅠ」のほか、別棟にデイサービスを併設したユニット「よしこⅡ」があり、閑静な住宅街に立地している。古民家の家主が長命であったことから、その名前をユニット名に付けている。「よしこⅠ」では、利用者は自宅で暮らすように家庭的な雰囲気の中で生活を送ることができているほか、「よしこⅡ」では、生活をともにする仲間同士が協力し合いながら生活できるイメージもあり、それぞれのユニットに応じた趣味を感じることができた。双方のユニットも利用者一人ひとりのアセスメントを行い、利用者の「できること」に注目して状態や思いに沿った支援につなげている。訪問調査日の職員からの聞き取りでは、経験などから「看取り時に家族の気持ちをとても理解している」「看護の目線で気づきがあれば、役立てたい」など、真剣に利用者への支援など取り組み姿勢の意見を聞くことができた。また、事業所として、在宅ケアに熱心な協力医と連携を図りながら、看取り介護や重度化した場合の対応にも柔軟に取り組んでおり、最後まで利用者が住み慣れた場所での生活を可能としている。</p>
---	---	---

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日ごろから話をきいたり、観察することにより把握することができている	◎	/	○	日々の会話の中で、職員は利用者から思いや希望を聞き、記録に残して職員間で共有している。重度化が進み自ら話せる利用者も少なくなり、職員は積極的に声をかけて利用者の現状に寄り添いながら職員間で話し合うなど、希望や気持ちの把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人に意思の確認をし、職員間ではカンファレンスなどで本人だったらという視点で考えるようにしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会時に話を伺う機会はあるが、話し合いまではできていない。面会のない方や連絡のつきにくい方に関してはできていない	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	生活記録に言動などを記入して、1か月間の状態のまとめを共有している。カンファレンスなどでも確認するようにしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の様子を見ながら、また話をきいて対応している。ただ本人の思いを見落としていることもある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時に入居前の情報をご本人、ご家族、関わりのあった事業所等から得ている。入居後はご本人より再度話をきいたり、家族が面会に来られた時に話を伺うこともある(全員ではない)	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から情報を聞くほか、以前利用していた介護サービス事業所の職員などから、少しでも多くの情報を得ている。洋裁や料理好きなど、利用者の生活歴や性格などは家族からこれまでの様子を伝えてもらうことができ、入居後に利用者等から聞き取った内容も記録している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の中で観察をして現状の把握をすることができている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	事前に得た情報や日々の中での状況を観察し、情報を得ている(その時の言動だけでなく態度や表情など)得た内容を生活記録に記入し職員間で情報の把握ができている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	生活記録や申し送りなどで情報共有をし、要因を把握するようにしている。本人や家族などに聞き取りたりすることもある。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	生活記録や申し送りなどで情報共有をし、把握をしている。ただ、居室内で過ごした時は状況がわからないこともある。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	なるべく本人の意向や思いに添えるようにこの視点で検討している。	/	/	○	基本的に全職員が参加して、毎月ミーティングを開催している。利用者の視点で日常生活動作や活動、心理面に至るまで職員間で話し合うことができ、話し合った内容はアセスメント表にまとめられている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンスやミーティングなどで本人の希望を踏まえた上で日々の情報を元に必要な支援は何か検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	職員間での課題の把握はできている。職員以外の関係者との間では共有できていないこともある。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	なるべく本人の思いや意向を反映した内容となっている。	/	/	/	毎月開催するミーティングで話し合った内容を踏まえて、利用者や家族と思いを共有しながら、介護計画を作成している。短期目標は3か月、長期目標は6か月の期間として、「食事を楽しみながらしたい」「洗えるところは自分でしたい」など、利用者の発するそのままの気持ちを介護計画に反映し、職員間で利用者の意向に沿えるよう課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	職員間では本人の状態を把握し、意見を参考にしながら、介護計画の作成を行っている。家族と話し合うことはほとんどない。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	本人らしさを念頭において検討しているが、身体介助がメインとなる内容となっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	外出に限られるが、家族の要望がある方に関してはないように盛り込んでいる。地域の協力体制は盛り込まれていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カンファレンスやミーティングなどで介護計画の内容の把握を行っている。また介護計画書を生活記録のファイルに挟み、いつでも目を通せるようにしている。	/	/	○	ミーティングの中で、各利用者の介護計画の内容を共有している。介護計画に沿って実施計画と手順書を作成し、日々の実践に活かしている。実践したケアは生活記録に残すほか、職員間で実施状況や現状を確認している。利用者の暮らしの様子やエピソードは、会話形式で具体的に記載された個別記録となっている。また、職員の気づきなどは、申し送りノートに記録を残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアした内容を生活記録に記入している。3か月に1回カンファレンスを行い、モニタリングを実施し、状況の確認をし、よりよい支援ができるようにしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	普段と異なる状況や変化など個別に詳しく記入している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケアの成功例や気づきなど生活記録に記入することができる。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的な期間で見直しを行っている。	/	/	○	3か月毎に介護計画を見直しをしている。各利用者の担当職員が中心となって、毎月アセスメントとモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。変化が生じた場合には、その都度職員間で話し合いながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回担当職員が現状確認を行っているが、介護計画の見直しまでは行っていない。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態の変化が生じたときには医師などに相談している。大きな変化があれば作成し直している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回ユニット会議を行っている。また事故発生時には近日に再発防止検討会を実施している。	/	/	○	毎月全職員が参加してミーティングを開催するほか、ユニット会議を実施している。ミーティングは、定期的なチームケアのための会議としても活用している。緊急時には、その都度話し合いの機会を設けている。会議の内容は議事録にまとめ、参加できなかった職員にも正確に伝えており、確認後に職員はサインをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	全員の意見を反映させられるよう、ミーティング前に思いついたことなどメモしてもらい、意見交換に繋げるようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	なるべく翌月の勤務作成時に日程を決めて、勤務表で周知できるようにしている。日中、ホーム内にて行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	議事録を作成し、参加できなかった職員も目を通せるようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	口頭での申し送り、申し送りノートなどで情報の共有を行っている。	/	/	○	事業所では、申し送りノートや議事録、メモ、口頭など、内容によって伝達手段を工夫し、職員間で伝え忘れのないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りの時間を作り、口頭にて申し送っている。また申し送りノートがあり、各自が確認できるようにしている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
(2) 日々の支援											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	×	一人ひとりに対応はできていない。				職員は、利用者に衣服や飲み物を選んでもらったり、テレビのチャンネル選択やレクリエーションなど、その日したいことを自己決定できる利用者もおり、選択の機会が増えるような声かけができるよう努めている。何気ない会話の中で、職員は利用者の反応を確認しながら、発言しやすい雰囲気づくりや声かけにも努めている。また、発言の少ない利用者も、職員が笑顔で接することで表情が和らいでいる。		
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	食事、おやつ、飲み物の選択、衣類の選択をしてもらっている(選択しやすいもの)					○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定できる機会を作ったり、利用者の状態に合わせて自己決定の方法を変えたりしている。本人の興味のあることなどから支援につながるようにしている。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活のペースを把握し、一人ひとりに合わせた支援を心掛けているが、集団生活の場であることもあり、職員側で状況判断し支援を行うこともある。						
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	一人ひとりの様子を見ながら、言葉かけの仕方など工夫している。また利用者の好むレクリエーションを行ったり、本人が活き活きしていた時代の話をしたりしている。						○
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の表情や反応などから本人の思いを読み取り、またこちらから伝える時にも表情やジェスチャーなどを活用し、少しでも伝わるように対応している。反応など生活記録に記入し、職員間で情報共有している。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	社内研修にて学ぶ機会あり。馴れ合いの関係になっている場面もみられ、不適切な対応になっていることもある。		◎	◎	○	「人権」や「尊厳」に関して、社内研修の中で職員への意識付けを行っている。利用者の名前を、慣れ親しんだ呼び方などを希望する利用者もおり、家族に了解を得た上で呼びかけをしている。難聴の利用者に職員がつい大きな声を発してしまう場面も見られ、管理者等は、「職員ができるだけ耳元で、その人だけに聞こえるよう配慮する必要がある」と反省している。居室への出入りは、ノックや声かけなどの基本的なマナーが守られるよう努めている。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	本人にだけわかるように声掛けをしたりすることもあるが、配慮の足りない場面もみられる。				△		
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレ、浴室にはのれんで見えないように配慮したり、扉を開けて対応したりしている。						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際には許可を取って、入室するようにしている。						○
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修にて学ぶ機会あり。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事参加の時には感謝の言葉を伝えている。生活を共にしているということを忘れずに対応している。					認知症それぞれの症状や利用者の性格でトラブルになりそうな場面もあるが、職員は利用者同士の関係性を把握し、支え合えるような対応に努めている。定期的に、利用者の席替えをしながら、平等な関係づくりをしている。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士で助け合っている場面などでは職員は介入せず状況を見守ることもあり、理解できている。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	△	利用者の関係性なども考えて、席の配置を行ったり、トラブルなどに繋がりそうであれば検討し直している。						○
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	トラブルが起こった時には職員が介入し、解消に努めている。						

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	本人、家族に聞き取りある程度は把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	本人、家族に聞き取り把握できている人もいる。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	訪問があれば対応しているが、こちらから出向くことはほとんどない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	感染症流行以前には家族の来所が定期的であり、居室内にてゆっくり過ごしてもらうように対応していた。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	感染症流行以前には月1回外出行事を実施していた。日常では買い物、散歩へ出かけていた。以後は庭先の花を觀賞したり、日光浴などし、季節感を感じてもらえるように取り組んでいる。ただ、職員の促しが必要であり、希望時、希望の場所へ行くなどには至っていない。	○	○	○	月1回の外出行事で、動物園やぶどう狩りなどに行ったり、日常的に散歩や買い物などに出かけたりできるよう支援している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の外出や買い物は自粛しているが、事業所周辺の散歩をしたり、庭に出て外気浴をしたりするなど、気分転換できるように努めている。また、職員は重度の利用者の体調を考慮しながら、可能であれば庭に出て外気浴をしたり、庭の花や野菜の生育を眺めたりできるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	出来ていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	体調などを見ながら、庭先へ出て日光浴をしたり、花や野菜などをみて季節感を感じてもらっている。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	感染症流行以前には家族との外出を頻繁にされる方もいた。また、外泊を含めた旅行へ行かれた方もいた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修を行っている。変化などあれば見落とさないように注意し、職員間で情報の共有を図り、必要があれば医師にも相談している。1日の流れで症状が出る方もいらっしゃり、不安感が取り除けるように声掛けをし、安心して過ごしてもらえるよう心がけている。				おやつ作りや調理の下ごしらえ、洗濯物をたたみなどの家事を中心に、職員は利用者のできることを見守りながら行ってもらっている。また、利用者の自立支援を念頭に置いて、職員はゆっくり行えるように意識した支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	カンファレンスなどで現状の把握をし、身体機能の維持・向上ができることが何か検討し、実施している。日課としてラジオ体操を行ったり、個別に身体機能の衰えがみられるところに関して対応したりすることもある。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	自身で出来そうな事は状況を見て見守り、出来たときには一緒に喜んだり、感謝を伝えたりするようにしている。危険性を感じる時には声掛けをしたり、職員が対応することもある。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常の様子から把握できている。				調理や洗濯などの家事、編み物、生け花、算数ドリルなど、利用者一人ひとりが好きなことで、日々楽しみが持てるような出番づくりをしている。利用者個人で生協の宅配サービスと契約して注文し、配送を楽しみに待っている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	仕事にきていると思っている方には家事を主体として取り組んでいただいたり、レクリエーションの好きな方には少しの時間ではあるが取り組む時間を取っている。(風船ハレーや歌を歌うなど)	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	秋祭りで地域の神輿が毎年施設敷地内に来るため、見学することはある。他行事には参加できていない。				

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	話を聞いたり、持参品から好みのものを把握するようにしている。				事業所では、利用者の好みを尊重した支援に努めている。服などの汚れが見られる場合には、さり気なくカバーするように努めているが、時には職員が声に出してしまうこともあり、管理者等は利用者への配慮不足を痛感している。職員は、利用者の洗面や整容後に、乱れがないか確認するよう努めている。理容師の資格を持つ職員が休日を利用して散髪したり、2か月に1回程度、訪問理容を活用したりして、髪型を整えている。重度な利用者は家族に協力してもらいながら、自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	更衣時、一緒に衣類を選んだり、購入したり、プレゼントを選ぶ際には本人の好みのものを選んで選んでいる。髪型は訪問美容師に好みの髪形を伝え、切ってもらっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	季節や本人の体感に合わせて、職員が提案したり、アドバイスするようにしている。また自己決定しやすいような雰囲気づくりを心掛けている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出行事の際はその季節に合わせて本人らしい服を選んだり、提案したりしている。また小物なども組み合わせている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさざりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	食べこぼし、滲などの汚れがあれば拭き取ったり、衣類の交換を行ったりしている。声に出している場面もあり、さりげなくカバーが出来ていないこともある。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	×	訪問美容師の対応となっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	整容は鏡の前で行い、本人にもわかるように介助している。持参された衣類を着ていただいたり、髪には持参されたアクセサリをつけたりすることもある。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	命を支える重要なものであることを理解できている。				週3回、昼食のみ配食サービスを活用するほか、献立は利用者の希望を取り入れながら、職員が立案している。下ごしらえを手伝いのほか、台拭きや下膳を自主的に協力する利用者もいる。職員は、季節の旬の食材を取り入れたり、時には郷土料理を作ったりするなど、利用者になつかしさが感じられるような工夫をして調理している。入居時に、アレルギーの有無や苦手な物を把握し、介護計画の中に「肉苦手、なるべく魚で代用」と記載し、代替えの食材を提供するなどの配慮もしている。食器類は、好みの物を持ってきてもらったり、事業所で使いやすいものを選んだりして使用している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食事を摂りながら必要なサポートを行っている。利用者が楽しみになるよう、お寿司パーティやどら焼き作りなども取り入れている。事業所には車いすの利用者が多いが、利用者全員リビングで食事を摂ることができている。また、必要に応じて、医療面でのアドバイスを得たり、利用者の体重測定を行ったりするなど、職員は栄養の偏りがないように配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	食べたいものを聞いたり、台ふき、お盆置き、配膳、下膳、おやつ作りなど行うことあり。感染症以前には買い物へ行っていた。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	出来ることを行って頂き、生活リハビリに繋がったり、おやつ作りに参加して楽しんでもらったりしている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入居時にアレルギー、好きなもの苦手なものを聞き取りし把握している。入居後も聞き取りをしたり、食べる様子を観察したり、食べ残しを確認し、記録に残し、好みの把握に努めている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節の食材を使用するように心がけている。また、季節に合わせた料理を作ったり、郷土料理を作ったりしている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	本人に合わせた調理方法、食器にしている。食欲をそそるような色合い、盛り付けを心掛けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	○	入居時には自宅で使用していた食器を持ち込んでもらっている。劣化した場合や身体状況の変化があればこちらが本人の状態に合わせた食器を用意している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	感染症流行以前は同じ食卓と一緒に食べていた。現在は予防のため距離を取り、食事をしているが、見守りを行い必要であれば声掛けや介助を行っている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングと台所が一体化しており、調理の音、においなどが伝わりやすい空間になっている。また調理中に献立の話をしったりしている。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	おかずを少量ずつではあるが品数を用意し、いろいろな食材の摂取ができるようにしている。食事量、水分量のチェック表がある。水分が少ない時には好みの飲み物を用意して少しでも摂れるように配慮している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	こまめに水分が取れるようにしたり、飲み込みがしにくい方にはとろみをつけて対応している。食事は食べにくそうであれば形状を変えたりして様子を見ながら対応している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	話し合うことはほとんどないが、近日中のメニューを確認し、偏りがないように配慮している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日、調理用具、シンク内のものを消毒している。また調理用具も生もの、それ以外を分けて使用している。毎日買い物へ行くため、新鮮なものを購入し、消費期限に気を付けてながら対応している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修あり。理解している。				職員は、介助の必要な利用者の口腔内の状況は把握できているが、自分で歯磨きをしている利用者の状況までは把握できていないところがある。必要に応じて、職員は介助や磨き残しの確認をしている。朝夕の口腔ケアは必ず行っているが、昼食後等の口腔ケアは利用者自身の意思に任せている。今後は、定期的に利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握できるよう確認日を設定するなど、確認できる工夫を期待したい。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	一人ひとりの把握はできていない。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	実技を学ぶ機会なし。歯科訪問協会が口腔内に関するパンフレットを持参してくださるので、目を通している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夜間は外していただき、洗浄剤での対応をしている。着脱できているか確認、介助している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後に歯磨きの声かけ、状態に合わせて介助を行うようにしている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	△	必要に応じて、訪問歯科の受診を受けている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	定期的に研修を行い、理解できている。				事業所では、トイレでの自然排泄を基本として支援している。記録を見て排泄パターンを把握し、時間やタイミングを計って職員は利用者に声をかけ、トイレへ誘導している。失禁などの失敗した下着を隠す利用者がいたため、家族と相談してリハビリパンツに変更したこともある。また、パッド類など排泄用品は、適切な利用ができるようミーティングなどを活用して職員は、現状確認や検討を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	身体の状態、健康状態によって影響が出るものだと理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	時間軸のついたチェック表を使用し、パターンの把握ができています。兆候(排便前の行動、発言など)を記録に記入し把握できるよう努めている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	カンファレンス、ミーティングなどで状態の把握をし、話し合っている。日中はトイレで排泄ができるよう、おむつ類の使い分けをし、状態に合わせて介助をしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ケアの成功例、失敗例を記録へ記入し、情報の共有をしている。また、カンファレンス、ミーティングなどで検討している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を確認したり、個々の排泄パターンに合わせ、声掛け、誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	本人と家族と話し合うことはない。本人の状態に合わせ、職員が選択している。本人に使用感を伺うことはある。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、夜間で使い分けしている。また、尿量などに合わせ、パッドの使い分けをしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	日課として、ラジオ体操を取り入れたり、レクリエーションで体を動かせるように支援している。排便を促しやすくするため、食後にトイレ誘導を行っている。また、食事、水分にも気を配っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	1日の中で入浴可能な人数があり、希望が叶わない方もいらっしゃる。時間帯、温度はその都度お聞きし、希望に添えるようにしている。	◎		○	入浴できる曜日を決めず、希望で毎日入浴をしている利用者もいる。利用者の石?やシャンプー、リンスのこだわりや、入浴や洗身の順番など、利用者個人を尊重して気持ちよく入浴できるよう支援している。お風呂上りに、薬用ローションを塗っている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	一人ひとりの希望に合わせ、見守り、声掛けなどを行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	状況を見ながら出来ていないことを介助するようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけのタイミングや仕方を変えたりして、気持ちよく入浴できるように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝バイタルチェックを行い本人にも体調の確認を行う。申し送りなどで昨日からの状態を把握し、入浴判断をしている。入浴後も変化がないか観察している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	生活記録などで把握している。				事業所では、利用者の一日の生活リズムを大切にし、眠れない時にも無理強いすることなく、ゆっくりと自由に過ごしてもらいながら、自然な眠気を待つなど、職員はゆとりを持って対応している。眠れず生活に支障をきたす場合などは、医師と相談しながら服薬も検討している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に活動を促したり、自力で起床ができない方に関しては、起床の時間を決めて起こしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	数日間の状況をみながら検討し、医師に相談している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	休みたいときには休んでもらうように対応している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があれば対応している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	希望があれば対応している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があれば対応している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたらお渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	理解、協力を得られる家族もいっしょに、家族の都合がよい時間など把握している。家族からも定期的に電話をくださる方もいっしょにやる。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	紛失時の対処など困難なこともあり、所持はなるべく控えていただいている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的ではないが、外出時や訪問販売が来たときに買い物される方もいっしょにやる。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	出来ていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	一部の方は少額所持されている方もいるが、使うことはほとんどない。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人の希望があり、家族と話し合って所持されている方もいる。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に管理方法を家族に伝え、同意を得ている。入出金時には出納長へ記入し、定期的に出納長のコピーとレシートをお渡ししている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	その時々々に応じて対応できるよう取り組んでいる。		◎	○	家族の協力を得て、外出や旅行ができるよう支援している。コロナ禍で外出が制限されていることもあり、利用者や家族の要望に応じて、不足品の買い出しに行くなど、柔軟な支援に取り組んでいる。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	庭先に元々植木があったり、花、野菜を植えたりして家庭的な雰囲気となっている。	◎	◎	◎	ユニット「よしこⅠ」は、古民家の一軒家でそのものが家庭的である。ユニット「よしこⅡ」は1階にデイサービスが併設され、周囲にプランターに花や野菜を植えている。それぞれのユニットで印象は違うが、玄関まわりは家庭的な雰囲気を演出している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	元々民家であり、柱などそのまま活用されている。季節の花を生けたり、飾りつけをしている。	◎	○	○	古民家の「よしこⅠ」は大きな梁が印象的で、玄関先にはたくさんの多肉植物が鉢に植えられている。「よしこⅡ」は吹き抜けの部分があり、採光などが入りとても明るい。どちらも季節の飾りつけや生花が活かされているほか、加湿器を置くなど居心地の良い空間づくりがされている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	音、光に関してはその時の状況に応じて配慮している。臭いは空気清浄機や換気などで配慮している。毎日清掃も行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感の感じられるものを取り入れ、季節の移り変わりを感じてもらえるように工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	席の配置は決まっているが、ソファを置いたり、テーブル以外の所にも椅子を置いている。食事以外は好きなところで過ごす方もいらっしゃる。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレには暖簾を付け見えにくいように配慮している。浴室は共用空間から離れたところにはあるが、入り口には暖簾をし、中が見えにくいように配慮している。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅より、使い慣れた家具など持ち込まれている方もいらっしゃる。本人自身が居心地よく過ごせるよう好みのものを置いたり、飾りつけをしている方もいらっしゃる。	◎		○	居室には、大船の模型やぬいぐるみ、家族写真、タンスなど、大切な物や使い慣れた物が置かれている。寝具も愛用していた毛布や布団が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されている。職員が工夫して手作りした段ボールマット状の上に、布団を敷いて寝ている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	△	家具の配置など、環境の整備を行い、安全に過ごせるよう配慮している。			○	車イスや歩行器が通りやすいよう、テーブルの配置を考えている。洗面台には、「車イスのブレーキをかけましょう」と貼り紙で注意を促したり、各居室の入口に顔写真を貼って分かりやすくしたり、食事の時の足置き台を配置するなど、建物内部に様々な工夫を見ることができた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	居室入り口には名札をつけたり、各個人の持ち物には名前を書いている(ものによってはさりげなく歯磨きセットは使用時は他人の物はよけておいたりしている。場所の把握ができていない場合にはわかるように案内を貼ったり、戸を閉めたりしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	利用者の認知症状が異なるため、安全面に配慮し、置けないものもある。新聞、本などはいつでも手に取れるようにテーブルなど手に届きやすい場所に置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	社内研修をしている。裏口に関しては防犯上と目に行き届かない場所であるため、施錠をしている。	◎	◎	○	職員は社内研修に参加して、鍵をかけることによる利用者の弊害を理解している。日中には玄関の施錠をせず、扉の開閉時のチャイム音で、職員は利用者や来訪者の出入りを把握している。外に出たい利用者には、職員が気配りしながら、そっと寄り添う対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居時や必要に応じて家族へ説明することあり。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関はリビングにありいつでも目に入る位置である。内戸にセンサーが付いており、戸が開くとチャイムが鳴るようになっている。外へ出られるときには一緒に出たり、見守ったりすることもある。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートにて把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日、バイタルチェックを行い、バイタルチェック表に記入している。一枚に一月間の記録を記入しわかりやすくしている。変化や異常のあった時には生活記録に赤ペンで記入しわかりやすくしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	併設しているデイサービスの看護師に気軽に相談したり、かかりつけ医に報告、相談できる体制もある。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	自宅にいたときのかかりつけ医にかかられている方もいらっしゃる。入居前のかかりつけ医に受診が困難な場合はこちらが提示し往診医を選んでもらっている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	各々の主治医と緊急時なども早急に対応できるよう連携を取れるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果で変わったことがあれば家族に伝えるようにしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には紙面での情報提供、職員が同行していれば口頭での情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	状況に応じて情報交換を行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入退院時には連携が取れるように対応している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日々の気づきなどの情報共有をし、困ったことがあれば相談することができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	相談できる体制あり。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、日々の体調観察をしている。状態に変化があれば看護職や医師に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	個人ファイルにお薬情報シートを挟み確認している。新しい薬、臨時の薬が追加になった時には申し送りノートに挟み確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	利用者別に服用時間別にセットを行い、セット薬の確認を別職員で行っている。また、服薬時も声出し確認し、内服後も飲み残し、落とし、忘れないか確認している。必要に応じてオブラートの使用もしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態を確認し記録に記入している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	日々の状況を記録している。情報の提供は定期的に行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に看取り可能であることはお伝えしている。状態の悪化、看取り期に入った時に意向の確認を再度行い、職員、家族間で情報の共有が図れるようにしている。	/	/	/	法人・事業所として、実施内容や研修などを明記した「重度化した場合における看取りの指針」があり、入居時や状態の変化時などに利用者や家族に説明している。在宅ケアに熱心な協力医と連携を図りながら、看取り支援を実施している。利用者の状態の変化に応じて、家族と医師を含めた関係者と話し合い、方針の共有した支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	状態の変化に伴い、カンファレンスを行っている。内容を記録し、情報の共有を図っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期についての研修を行っている。またミーティング、カンファレンスで職員の思いや意見をきいて把握するようにしている。介護職としてのできることを把握してもらっている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時、状態の変化時に説明を行い、理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	日ごろから情報の共有を行い、連携が図れるようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	面会時、状況に合わせて話をききとり、家族の心情などはあくするように努めている。またききとった内容を記録し、職員間で情報の共有をしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修あり、定期的に学んでいる。感染症対策マニュアルもある。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症対策マニュアル、社内研修があるが、実践的な研修は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	行政などの情報から、予防対策などの情報を得て取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	さまざまなツールから情報の確認を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗い、消毒をこまめに行っている。嗽は出勤時、外出後に行っている。利用者にはトイレ後、外出後、手洗い必ず行ってもらっている。現在は来客の方には手指消毒をお願いしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	月1回ホームでのご様子を手紙で送り、面会に来られた家族には様子をお伝えしている。				現在はコロナ禍で、外出行事は自粛しているが、管理者等は、以前のように家族と一緒にいちご狩りやぶどう狩り、外食などに早く出かけられることを願っている。利用者の日々の様子は、毎月手紙に写真を沿えて送付しているほか、2か月に1回の写真を多く取り入れた事業所便りも送付している。運営推進会議に参加している家族もいるほか、会議録を家族全員に送付し、会議の意義や内容を理解してもらえるよう努めているが、詳細な理解までには至っていないところがある。家族から要望を伝えやすいように、来訪時に職員は笑顔で声をかけ、気軽に相談ができるような雰囲気づくりに努めている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時間は決まっておらず、どの時間でも来所していただけるようになっている。感染症流行以前には居室にてゆっくり過ごしていただけるよう、飲み物などを用意し対応していた。現在は面会時間を設けて、玄関先での対応となっている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	散歩などをされる家族もいる。以前は外出行事があるときに声掛けをし、参加される家族もいらした。		○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月一回近況報告(生活、健康面など)の手紙をお送りし、2ヶ月に1回は写真つきのホーム便りを同封している。		◎			○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	運営推進会議時や面会時など話を伺っている。報告までできていないことが多い。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	関わり方など日ごろの対応方法などお伝えしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議にて行事に関しては報告している。その他はほとんど報告できていない。		x			△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議に出席された方は雑談などされている方もいるが、それ以外ではきっかけ作りが出来ていない。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	現在の状況からのリスクについての説明はできているが、対応策の話し合いまではできていない。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来所時には必ず職員があいさつをし、気軽に話しやすい雰囲気づくりはできている。玄関先に意見箱の設置あり。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	内容変更時には文面で配布し、電話、口頭にて説明、了承を得ている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	以前に医療的ケアが必要な方には主治医、家族と相談の上退去先を紹介してもらった事例があった。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時には説明を行い、同意を得ている。内容変更時には文面で配布し、電話、口頭にて説明、了承を得ている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に町内の役職者を読んで理解を得ている。	/	◎	/	事業所として町内会に入会し、松山市広報や回覧板を回してもらっている。職員は、積極的に地域の公園の清掃や溝掃除、ゴミ出し、地域行事などにも、参加協力をしている。運営推進会議には、町内会長や老人クラブ会長、民生委員などの参加もあり、意見交換ができています。また、近隣住民と挨拶を交わし、気軽な関係づくりに努めている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶を行っている。町内会にも入会している。地域清掃、行事にも参加。婦人会のバザーに足を運んでいる。	/	◎	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	近隣の方で顔なじみになっている方もいらっしゃる。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	近所の方が野菜の販売に来ることがある。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近所の方にお会いしたら挨拶するようにしている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	現在は感染症予防のため出来ていないが、デイサービスへボランティアが来所し、行事を行っているときには参加していた。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	利用者が地域資源を活用することはなし。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近所のスーパー、喫茶店などを利用し、顔なじみにはなっているが理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みまでは行っていない。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はなし。家族、地域の人参加はあり。	/	◎	○	運営推進会議は、民生委員や老人クラブ会長、町内会長、市担当者、地域包括支援センター職員、家族等が参加して、隔月で1回、土曜日の午前に開催している。家族の参加に関しては固定化が見られるため、利用者の参加も合わせて検討することを望みたい。会議では外部評価の結果や活動報告がされ、参加家族から「職員の名前を知りたい」という意見が出され、ユニットの入口には写真入りの本日の出勤職員を貼り出す対応をしている。会議録は、全ての家族に送付することができている。現在のコロナ禍で今年3月と5月、11月の会議は書面で開催しているが、7月と9月は会議を実施できている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事報告、利用者の状況報告を行っている。	/	/	○		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	毎回、参加者全員からご意見を伺っている。現場だけではわからない貴重な意見として受け止めサービス向上に努めている。次回、運営推進会議時や来所時に報告している。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	奇数月の月末土曜日に実施することが多い。前もって案内をお送りしている。	/	◎	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	家族にお渡ししている。市役所、担当の地域包括支援センターにも送付している。	/	/	/		/

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	会社の理念はスタッフルーム、ホームの理念はホームのリビングに掲示している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ホーム内にユニットの理念を掲示しているが、口頭でつたえることはなし。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内の研修はなるべく受講できるよう時間帯や内容など考え実施している。 外部の研修は案内をみて各自で受講したいものがあれば受講している。	/	/	/	法人の規模は大きく、事業所の運営等は部長や課長に任せられ、管理者が中心となり、職員の意見を取りまとめて報告している。管理者は、部長等に職員の意見を伝えたり、相談したりすることができる。管理者等は、リフレッシュ休暇や希望休を取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	入社時にOJTを実施しているが、それ以降はない。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	個々の実績は把握しにくいところがある。 資格取得時に合格祝い金支給のシステムはあり。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	事業所団体への加入はしているが、現場職員が同業者との交流する機会はない。 外部の研修は参加する機会ありその際に交流する機会あり。管理職が市の連絡会へ参加することはあり。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	△	勤続年数に応じてリフレッシュ休暇あり。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	社内研修を実施している。具体的例を示し把握できるよう努めている。 3か月に1回、身体拘束等適正化委員会を行い、不適切ケアについても学んでいる。	/	/	/	定期的に社内研修を実施し、不適切な行為を発見した場合の対応方法を職員に周知している。虐待がニュースで報道されると、ミーティング時に職員間で話し合い、意識向上につなげている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングやカンファレンスで振り返り、話し合う機会はある。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	△	研修で対応手順を周知している。お互いに注意を払いにくいところがある。	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	点検まではできていない。 勤務が連続して続かないように配慮はしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修を実施、周知している。身体拘束等適正化委員会も実施し勉強会をしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	研修やカンファレンスなどで話し合う機会はあるが点検はできていない。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	要望が出たときには行うことによりリスクがあることを説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修で学ぶ機会あり。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	必要に応じて支援している。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制までは築けていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルあり。社内研修で周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	実践的訓練は行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット事例にまとめたり、日常で気になったことは注意を払っている。事故発生時には再発防止検討会を行い、改善できるように努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	△	ヒヤリハットなどでリスクや危険について把握はできているが検討まではできていない。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルあり。社内研修も実施している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情はほとんどないが、要望があれば速やかに対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があれば改善点としてとらえ、話し合いをしたり、上司へ報告するなどし、速やかに対応している。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	日常の中の会話から聞き取ったりすることはあるが個別に時間を設けてはできていない。				利用者からは、職員が日々の会話の中で意見を聞くほか、直接意見を伝える利用者もいる。家族からは、運営推進会議や面会、介護計画の説明時に意見や要望を聞いている。今回、毎日面会に来ていた家族の要望や相談を受け、期待に応えられるよう対応している。管理者はミーティングなどの機会に職員の意見を聞くほか、事前に意見や気づきなどを用紙に記載してもらい、平等に検討しながら業務に活かせるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	来所時や電話などで対応することあり。機会を作っていない。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	×	適宜は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	×	年に数回訪問はあるが、話をする機会はなし。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	△	ミーティング時に意見をきくことはあるが、ゆっくり一人ひとり時間を取って話すことはできていない。				

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	△	2年に一度、外部評価内の自己評価を実施し、全職員に目的などを把握してもらっている。年間では接遇面など、点検を行っている。				外部評価のサービス評価について、運営推進会議等での評価結果の報告が中心となっており、事業所の取組み状況のモニターにまでは至っていない。家族に運営推進会議の議事録を送付していることから、今後は、会議等を活用して目標達成計画の取組み状況などの経過を頻回に報告したり、家族や地域アンケートの内容を分かりやすく説明するなどの工夫を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	日々の業務の意識の統一、また実施できていない、足りない点を把握し、より良いサービスが提供できるように改善していく機会にしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実施することができ、取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	報告は行ったが、モニターはしてもらっていない。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	確認しやすい内容であったため出来ている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルあり。研修でも周知している。				年1回消防署が立ち合いをして避難訓練を実施するほか、年2回水害等を想定した訓練も実施している。訓練には、地域の防災士も参加している。運営推進会議や事業所連絡会では、災害について話し合う機会はある。事業所のある地域は、水害危険地域にも指定されていることもあり、難しい面もあるが早急に地域住民と協力関係を築くことを期待したい。また、設置しているAEDの活用方法などを含め地域住民が集まりやすい機会を設けるなど、継続して協力・支援体制を呼びかけ整えることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	様々な時間帯の訓練はできていない。水害で夜間を想定した訓練は行った。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	消火設備、避難経路は業者を介して点検している。その他備品に関しては定期的には行っていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	消防署の立ち入りはあり。地域住民代表と話すことはあるが、協力体制までは築けていない。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	出来ていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	出来ていない。				運営推進会議の時に、地域住民等から相談を受けることはあるが、積極的な相談までは行われていない。ユニット「よしこⅠ」の管理者は認知症キャラバンメイトでもあり、その知識を相談支援などに活用する検討を望みたい。事業所として連絡会に参加したり、社会福祉協議会の人材育成や警察署等の「まもるくんの家」にも協力したりすることができている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	出来ていない。		○	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	解放、活用されていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	社内で初任者研修養成講座があるが、実習の受け入れはなし。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	町内会に入会したり、まもるくんの家にはなっている。			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 11 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3870104209
事業所名 (ユニット名)	(株)ケアジャパン グループホームハッピー余戸 よしこハウスII
記入者(管理者) 氏名	伊藤 美智子
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 15 日

<p>【事業所理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたのしてみたい、行ってみたいを大切にします。</li> <li>・あなたの笑顔が私たちの喜びです。</li> <li>・この町で暮らし地域の一人として生活していくことを支援します。</li> </ul>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1・2の関わりについて、「同じホームなのに接点が少ない」との課題について合同ミーティングを行ったり、レクリエーションの研修など1・2合同で入居者様も交えてお楽しみ会を行った。 「介護方針の統一を図る」とのことで、言葉遣いや接遇等の再確認を行った。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所には、古民家を改修したユニット「よしこⅠ」のほか、別棟にデイサービスを併設したユニット「よしこⅡ」があり、閑静な住宅街に立地している。古民家の家主が長命であったことから、その名前をユニット名に付けている。「よしこⅠ」では、利用者は自宅で暮らすように家庭的な雰囲気の中で生活を送ることができているほか、「よしこⅡ」では、生活をともにする仲間同士が協力し合いながら生活できるイメージもあり、それぞれのユニットに応じた趣味を感じることができた。双方のユニットも利用者一人ひとりのアセスメントを行い、利用者の「できること」に注目して状態や思いに沿った支援につなげている。訪問調査日の職員からの聞き取りでは、経験などから「看取り時に家族の気持ちをとても理解している」「看護の目線で気づきがあれば、役立てたい」など、真剣に利用者への支援など取り組み姿勢の意見を聞くことができた。また、事業所として、在宅ケアに熱心な協力医と連携を図りながら、看取り介護や重度化した場合の対応にも柔軟に取り組んでおり、最後まで利用者が住み慣れた場所での生活を可能としている。</p>
--	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	お話を聞くことを優先し、日々のコミュニケーションをとっています。	◎	/	○	日々の会話の中で、職員は利用者から思いや希望を聞き、記録に残して職員間で共有している。重度化が進み自ら話せる利用者も少なくなり、職員は積極的に声をかけて利用者の現状に寄り添いながら職員間で話し合うなど、希望や気持ちの把握に努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	1人の判断ではなく複数のスタッフで話し合いをしています。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	◎	キーパーソンや家族様にお話を聞いています。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	生活シートや雑談の中からいろいろな情報を得ています。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	話をゆっくり聞き、聞き落とさないようにしています。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	家族様ともコミュニケーションをとり、大切にされているもののお話を聞いています。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から情報を聞くほか、以前利用していた介護サービス事業所の職員などから、少しでも多くの情報を得ている。洋裁や料理好きなど、利用者の生活歴や性格などは家族からこれまでの様子を伝えてもらうことができ、入居後に利用者等から聞き取った内容も記録している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	どこまで可能かを知る、どんな声かけでどう動かれるのかを知ることができるように記録しています。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の生活の中で、把握し、スタッフ全員で共有しています。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	日々の生活の中で観察し、把握に努めています。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	毎日の生活リズムを把握し不穏にならないように気をつけています。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	同じ時に同じ行動や言葉が出ているのを聞き逃さないようにしています。	/	/	○	基本的に全職員が参加して、毎月ミーティングを開催している。利用者の視点で日常生活動作や活動、心理面に至るまで職員間で話し合うことができ、話し合った内容はアセスメント表にまとめられている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	毎日ミーティング等で話し合いを行っています。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	記録に残しスタッフ全員と話し合うようにしています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人から、家族から充分に聞くようにしています。				毎月開催するミーティングで話し合った内容を踏まえて、利用者や家族と思いを共有しながら、介護計画を作成している。短期目標は3か月、長期目標は6か月の期間として、「食事を楽しみながらしたい」「洗えるところは自分でしたい」など、利用者の発するそのままの気持ちを介護計画に反映し、職員間で利用者の意向に沿えるよう課題を検討している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	御本人からは話の端々から。家族様からは来所時少しお時間をいただき、意見を聞き作成しています。	○			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居以降、状態が重度となっても以前と変わらないようにしています。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族様の意向はありますが、地域の支えはお祭りの参加程度です。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	職員間で共有し、担当者は特に事細かく観察しています。				ミーティングの中で、各利用者の介護計画の内容を共有している。介護計画に沿って実施計画と手順書を作成し、日々の実践に活かしている。実践したケアは生活記録に残すほか、職員間で実施状況や現状を確認している。利用者の暮らしの様子やエピソードは、会話形式で具体的に記載された個別記録となっている。また、職員の気づきなどは、申し送りノートに記録を残している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員間ではいつも話し合いを行っています。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	細かく記録するようにしています。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	日々、個人記録に書き込んでいます				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に一度、状態に変化の無い方でも期間に応じ見直しを行っています。				3か月毎に介護計画を見直しをしている。各利用者の担当職員が中心となって、毎月アセスメントとモニタリングを行い、利用者の現状を確認している。変化が生じた場合には、その都度職員間で話し合いながら、利用者の現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のカンファレンスで行っています。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	まず、ご家族様とドクターに連絡しています。随時計画を見直しています。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	毎月必ずミーティングを行っています。				毎月全職員が参加してミーティングを開催するほか、ユニット会議を実施している。ミーティングは、定期的なチームケアのための会議としても活用している。緊急時には、その都度話し合いの機会を設けている。会議の内容は議事録にまとめ、参加できなかった職員にも正確に伝えており、確認後に職員はサインをしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	ミーティングで現状報告し、できるだけ多くの職員が参加できるようにし意見を聞くようにしています。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	場所はホーム内。出勤者も参加できるようにしています。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	◎	ミーティングノートを必ず閲覧しサインしていただいています。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りノートを作成しています。				事業所では、申し送りノートや議事録、メモ、口頭など、内容によって伝達手段を工夫し、職員間で伝え忘れのないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノートに目を通して、現状を的確に把握するようにしています。伝え漏れのないようにしています。	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	起床時の会話などからなるべく希望を聞くように努力しています。	/	/	/	職員は、利用者に衣服や飲み物を選んでもらったり、テレビのチャンネル選択やレクリエーションなど、その日したいことを自己決定できる利用者もおり、選択の機会が増えるような声かけができるよう努めている。何気ない会話の中で、職員は利用者の反応を確認しながら、発言しやすい雰囲気づくりや声かけにも努めている。また、発言の少ない利用者も、職員が笑顔で接することで表情が和らいでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	その日の日常着選びや10時の水分などで可能な限りお聞きするようにしています。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	主に食べ物の希望が多いので、なるべくお出しできるようにしています。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	予定が入ったり、他の方の体調により、そちらを優先させていただくこともあります。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	まず笑顔で対応するようにしています。(お声かけはゆっくり、はっきりと)	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	そのような方が入居されていません。今のところ上手くできています。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	個人のプライド、人権を意識した言葉遣いを心掛けているつもりではありますが、時々本当の祖母様のようにお声かけしてしまうことがあります。	◎	◎	○	「人権」や「尊厳」に関して、社内研修の中で職員への意識付けを行っている。利用者の名前、慣れ親しんだ呼び方などを希望する利用者もおり、家族に了解を得た上で呼びかけをしている。難聴の利用者に職員がつい大きな声を発してしまう場面も見られ、管理者等は、「職員ができるだけ耳元で、その人だけに聞こえるよう配慮する必要がある」と反省している。居室への出入りは、ノックや声かけなどの基本的なマナーが守られるよう努めている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	耳元でのお声かけ、他の人には知られたくない話のときは場所を変えるようにしています。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	トイレの戸は閉めるようにしています。居室前には暖簾をかけています。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	お声かけし、許可をいただいてから入室するようにしています。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	人格を尊重し対応しています。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	知らなかった花の名前や歌、美味しい食べ方など教えていただき、感謝の言葉をお伝えしています。	/	/	/	認知症それぞれの症状や利用者の性格でトラブルになりそうな場面もあるが、職員は利用者同士の関係性を把握し、支え合えるような対応に努めている。定期的に、利用者の席替えをしながら、平等な関係づくりをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	楽しく雑談をしたり、ゲームされて笑い声が増えるように工夫しています。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	3か月に一度席替えをして皆さんが平等に交えるように工夫しています	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	1対1の話し合いを生じさせないように職員が間に入り、関係修復に努めています。	/	/	/	

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	来訪者や生活既往歴によって把握しています。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	生活既往歴や本人の話から把握しています。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	ホームから出かけるがありません。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	いつでも来訪いただけていましたが、新型コロナウイルス流行によりできていません。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天候や季節に左右されますが、今回の感染症の前には近くの公園やペットショップに外出することが多くありました。	○	○	○	月1回の外出行事で、動物園やぶどう狩りなどに行ったり、日常的に散歩や買い物などに出かけたりできるよう支援している。現在は新型コロナウイルス感染症対策のため、利用者の外出や買い物は自粛しているが、事業所周辺の散歩をしたり、庭に出て外気浴をしたりするなど、気分転換できるように努めている。また、職員は重度の利用者の体調を考慮しながら、可能であれば庭に出て外気浴をしたり、庭の花や野菜の生育を眺めたりできるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	月1回程度外出計画お立てしていました。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	重度の方がいないので全員参加されていました。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	◎	家族様をお誘いしてブドウ狩り、コスモス畑、動物園に行きます。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	ご本人をよく見て話をして理解ができるように努力しています。自分に置き換えてわからないときはドクターに相談しています				おやつ作りや調理の下ごしらえ、洗濯物をたたみなどの家事を中心に、職員は利用者のできることを見守りながら行ってもらっている。また、利用者の自立支援を念頭に置いて、職員はゆっくり行えるように意識した支援に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の健康状態をバイタルチェックにて把握し、他の職員と話し合いながらレベル低下のないように努めています				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	その方の性格を分かったうえで、まずやる気が出るようなお声かけをするようにしています。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	趣味、生活歴を会話などから把握しています。				調理や洗濯などの家事、編み物、生け花、算数ドリルなど、利用者一人ひとりが好きなことで、日々楽しみが持てるような出番づくりをしている。利用者個人で生協の宅配サービスと契約して注文し、配送を楽しみに待っている利用者もいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	昔からできていたことを継続できるように、筋力低下にならないようお手伝いも兼ねていただいています。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	もともと、この地域出身の方がいないので、見ることで楽しんで頂いています。				

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	もともと持っていた物から好みを把握しています。				事業所では、利用者の好みを尊重した支援に努めている。服などの汚れが見られる場合には、さり気なくカバーするように努めているが、時には職員が声に出してしまうこともあり、管理者等は利用者への配慮不足を痛感している。職員は、利用者の洗面や整容後に、乱れがないか確認するよう努めている。理容師の資格を持つ職員が休日を利用して散髪したり、2か月に1回程度、訪問理容を活用したりして、髪型を整えている。重度な利用者は家族に協力してもらいながら、自分らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	日頃から好んで着ている服や髪形を見て、カットのときやお誕生日のプレゼントなど選んでいます。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に選ぶようにしていますが、どうしても毎日同じような服装になってしまいます。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	◎	外出時、帽子をかぶったり、よそ行きを着ていただいたりしています。お願いしています。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	毎朝洗面静養の後仕上げをしています。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	体調や金銭の都合上、来所していただける方をお願いしています。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	「元気な時はこうだったね」とか「こんなの好きよね」とお声かけて本人らしさに近づけられるようにしています。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事の大切さを勉強理解しています。				週3回、昼食のみ配食サービスを活用するほか、献立は利用者の希望を取り入れながら、職員が立案している。下ごしらえを手伝いのほか、台拭きや下膳を自主的に協力する利用者もいる。職員は、季節の旬の食材を取り入れたり、時には郷土料理を作ったりするなど、利用者になつかしさが感じられるような工夫をして調理している。入居時に、アレルギーの有無や苦手な物を把握し、介護計画の中に「肉苦手、なるべく魚で代用」と記載し、代替えの食材を提供するなどの配慮もしている。食器類は、好みの物を持ってきてもらったり、事業所で使いやすいものを選んだりして使用している。職員は利用者と同じ食卓を囲み、一緒に食事を摂りながら必要なサポートを行っている。利用者が楽しみになるよう、お寿司パーティやどら焼き作りなども取り入れている。事業所には車いすの利用者が多いが、利用者全員リビングで食事を摂ることができている。また、必要に応じて、医療面でのアドバイスを得たり、利用者の体重測定を行ったりするなど、職員は栄養の偏りが無いよう配慮している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	何が食べたいか聞いて献立作りをしたり、調理の助言をもらったりしています。下膳はできる方には各人していただいています。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できる限り下膳はしていただいています。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	命にかかわることなので、入居前に必ず把握しています。食べ残しにも注意しています。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	見当識障害の方もいらっしゃるので、アレルギー等も把握しながら食材を選ぶようにしています。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	健康状態を最優先にした調理方法にしています。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	◎	入居前に昔からの馴染みの使いやすい物を持参していただいています。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	誤嚥の可能性のある方や介助の必要な方の傍でサポートしています。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所と直結した作りになっているので、調理の音や匂いは感じいただけます。		○	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	体調や病歴を把握したり、ドクターと相談しながら食事を提供しています。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分量、食事量を記録し別のものに置き換えたりして工夫しています。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りが無いように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	好きなもの、食べたいものを優先していますが、週3日は給食としてバランスの取れた食事しています。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	毎日毎回調理器具の消毒を行い、賞味期限の確認等を必ず行っています。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	「健康は口から」をモットーにして歯磨き、口腔ケアの大切さは理解しています。				職員は、介助の必要な利用者の口腔内の状況は把握できているが、自分で歯磨きをしている利用者の状況までは把握できていないところがある。必要に応じて、職員は介助や磨き残しの確認をしている。朝夕の口腔ケアは必ず行っているが、昼食後等の口腔ケアは利用者自身の意思に任せている。今後は、定期的に利用者一人ひとりの口腔内の健康状況を把握できるよう確認日を設定するなど、確認できる工夫を期待したい。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自立の方はご本人にお任せし、お手伝いの必要な方は把握しています。			△		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	ケアの方法は洗面台側に掲示しています。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自分で毎晩義歯を出していただき、ホリデントにつけ消毒されています。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	自立の方にはお声かけし必ず手入れしていただき、介助の必要な方は付き添ってお手伝いしています。			○		
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	ご本人からの訴えや発見時にはご家族様と相談し、訪問歯科に来ていただいています。					
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	使用開始時の不穏や不安が心身へのダメージを与えることを研修し、理解に努めています。				事業所では、トイレでの自然排泄を基本として支援している。記録を見て排泄パターンを把握し、時間やタイミングを計って職員は利用者に声をかけ、トイレへ誘導している。失禁などの失敗した下着を隠す利用者がいたため、家族と相談してリハビリパンツに変更したこともある。また、パッド類など排泄用品は、適切な利用ができるようミーティングなどを活用して職員は、現状確認や検討を行っている。	
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	便秘の方が多くこともあり、体調不良や食欲不振には充分に気をつけています。					
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を作成し細かく記録しています。					
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日々現状に応じて声掛け時間を変えてみたり、パッドの大きさを変更してみたり工夫しています。		◎	○		
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	記録を観察し、ミーティング時に話し合っています。					
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	日中の行動で気が付いたことなど申し送り、早めにお声かけしています。					
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	何日間かしっかり付き添わせていただき、ご本人が一番合ったものを探し、使用してから決定しています。					
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	その日の状態に合わせて使い分けるようにしています。					
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	毎朝、ヨーグルトやバナナ等の排泄効果のあるものを提供したり、腹部マッサージを行っています。					
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	午前と午後の希望を聞いたり、体調面を優先し希望に沿えるようにしています。			◎	○	入浴できる曜日を決めず、希望で毎日入浴をしている利用者もいる。利用者の石?やシャンプー、リンスのこだわりや、入浴や洗身の順番など、利用者個人を尊重して気持ちよく入浴できるよう支援している。お風呂上りに、薬用ローションを塗っている利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	1日に多くの方を入れるのではなく、シャワー浴・浴槽浴など希望に添えるようにしています。					
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自立の方、見守りの方、全介助の方とその方にあった支援を行っています。					
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒否のある方は別のスタッフがお声かけしたり、時間を置いて再度お声かけしたり、日を変えてお声変えたりしています。					
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎日のバイタルを参考にし、又その時の体調の変化に気をつけながらお声かけしています。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	生活記録、申し送り等から全員が把握しています。	/	/	/	事業所では、利用者の一日の生活リズムを大切に、眠れない時にも無理強いすることなく、ゆっくりと自由に過ごしてもらいながら、自然な眠気を待つなど、職員はゆとりを持って対応している。眠れず生活に支障をきたす場合などは、医師と相談しながら服薬も検討している。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	施設での行事や来訪者などで生活のリズムが崩れた場合は自然な形で元のリズムに整えることができるように対応しています。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	ご本人が体調を崩してしまわないように他の利用者様にご迷惑が掛からないように職員と話し合い医師に相談して支援を行うようにしています。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	ご本人の体調に合わせて居室で休んで頂くようにしていますが、昼夜逆転にならないようお声かけしています。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	現在は手紙のやり取りはありませんが、いつでもできるように準備しています。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	手紙を書く方はいませんが、直接ご家族様とお話する際には番号を押し、代わっています。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	電話から離れた所にいるようにしています。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	現在の入居者様にはいらっしやいません。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	ご本人が物とられ妄想があるため、ご家族様が電話対応して下さったり、紙に書いて貼って下さっています。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	持てはいけないことへの不安や持っていることの安心感があるが、施設なので紛失のリスクも話し合っています。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	買い物に行きたい希望がありません。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物に行きたいと言われる方がいらしゃらないので、ご家族様や職員が買ってきたもので喜ばれています。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	所持していることで安心される方にはご家族と相談の上、少額持っていたいていますが必要性がないので置きっぱなしになっています。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	大切なことなので入居時にご家族様と施設で相談しています。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	重要事項説明書での記載も有同意を得ています。入金時にサインしていただき、コピー等をお渡ししています。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	個々の入居者様に対応するためご家族様からお話を聞いたり生活歴を把握し職員やドクターと話し合いながら支援しています。	◎	/	○	家族の協力を得て、外出や旅行ができるよう支援している。コロナ禍で外出が制限されていることもあり、利用者や家族の要望に応じて、不足品の買い出しに行くなど、柔軟な支援に取り組んでいる。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	施設入り口から季節に合わせてレイアウトをしたり、興味ある掲示物を飾ったりしています。また、今まで施設に縁のあった方のご家族様とずっと仲良くさせていただいております。	◎	◎	◎	ユニット「よしこⅠ」は、古民家の一軒家でそのものが家庭的である。ユニット「よしこⅡ」は1階にデイサービスが併設され、周囲にプランターに花や野菜を植えている。それぞれのユニットで印象は違うが、玄関まわりは家庭的な雰囲気を演出している。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	各居室の真ん中に食堂兼居間があり、ほぼ一日中皆さんが集まって過ごしています。季節を感じるレイアウトにしています。	◎	○	○	古民家の「よしこⅠ」は大きな梁が印象的で、玄関先にはたくさんの多肉植物が鉢に植えられている。「よしこⅡ」は吹き抜けの部分があり、採光などが入りとても明るい。どちらも季節の飾りつけや生花が活かされているほか、加湿器を置くなど居心地の良い空間づくりがされている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	皆が集まる場所なので、1日に一度は必ず掃除します。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節のお花を飾ったり、CDを掛けたりお話をしながら昔の思い出話を聞かせていただいています。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	約3か月に1度、ホールの席替えをして皆さんと近づけるような工夫をしています。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	ホールから死角になっています。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	昔から使用されている物を近くに置いて安心して過ごしていただいています。	◎		○	居室には、大船の模型やぬいぐるみ、家族写真、タンスなど、大切な物や使い慣れた物が置かれている。寝具も愛用していた毛布や布団が持ち込まれ、居心地よく生活できるよう配慮されている。職員が工夫して手作りした段ボールマット状の上に、布団を敷いて寝ている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	バリアフリーで広いホールにしてあるので、安全に動け、分かりやすく表示しています。			○	車イスや歩行器が通りやすいよう、テーブルの配置を考えている。洗面台には、「車イスのブレーキをかけましょう」と貼り紙で注意を促したり、各居室の入口に顔写真を貼って分かりやすくしたり、食事の時の足置き台を配置するなど、建物内部に様々な工夫を見ることができた。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	刃物、ひもなどは職員が付き添って使用します。危険物は持ち込まないようにしています。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	昔からの趣味や大切にしている物を持ってきていただいたり、入居時に箸、茶碗など持参していただいています。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	俳諧の入居者様がないことと、身体拘束研修で弊害を理解していますので開閉時音が流れるようにしています。	◎	◎	○	職員は社内研修に参加して、鍵をかけることによる利用者の弊害を理解している。日中には玄関の施錠をせず、扉の開閉時のチャイム音で、職員は利用者や来訪者の出入りを把握している。外に出たい利用者には、職員が気配りしながら、そっと寄り添う対応をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	入居時にご家族様とお話しますが、日頃から施錠しているのが当たり前なので逆に許可をいただいています。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に出ようとされないので鍵はかけていません。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居前より情報をいただき、入居時までに申し送りを行い、全員が把握しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎朝のバイタルチェックを基本に変化があれば記録に残し早期発見に努めています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	週1日看護士の出勤があり、日々の様子をチェックしていただいています。不安や気がかりな点は、すぐ解消できるようにかかりつけ医とは電話やメールで連絡できるようになっています。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	ご本人やご家族の希望があれば、他の医療機関でも受診できるように支援しています。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	△	昔からのかかりつけ医が継続して現在に至っているので、その関係を大切にしています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診結果は日常生活に大変関わってくることなので、職員が共有し、ご家族様にも正確にお伝えするようにしています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	介護サマリーを作成し、お渡ししています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	介護サマリーを作成し、お渡ししています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院時(その時)に関係を作るようにしています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	看護職出勤時には日常の変化や症状を確認してもらうこと、不在時の様子は記録を残しています。かかりつけ医とはメールやライン、電話などですぐ連絡がつくようになっています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	いつでも連絡できるようにしていますが、平日はデイサービスの看護師がすぐ対応していただいています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	日々のバイタル測定、顔色や仕草、動きなどから早期発見に心掛けています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	薬の内容は医師からの説明を受けたり、独自に調べたりしながら個人のファイルを使って勉強しています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	最低3人の職員で確認しています。服用後も間違いの無いように確認しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	少しの変化でもかかりつけ医に報告し、指示を仰いでいます。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	医師、看護師とは日常より密に連絡を取り合っているため小さな変化でも報告し、相談できるようになっています。				

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時にも説明し、その状態になった時ご家族、医師、職員間で話し合いをしています。	/	/	/	法人・事業所として、実施内容や研修などを明記した「重度化した場合における看取りの指針」があり、入居時や状態の変化時などに利用者や家族に説明している。在宅ケアに熱心な協力医と連携を図りながら、看取り支援を実施している。利用者の状態の変化に応じて、家族と医師を含めた関係者と話し合い、方針の共有した支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	◎	ご本人の希望、ご家族の希望を優先し、医師も交えてしっかり話し合いを行っています。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	ミーティングや面接などを行い、又、カンファレンス時に話し合いを行っています。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時に説明しています。その後、その都度説明しご理解を得るようにしています。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	職員とはミーティングや申し送りノートを活用し現状の把握をしてもらい、ドクターには小さな変化も報告するようにしています。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	連絡を取り、状態を細かくお話ししたり、ご家族からの話をしっかり聞き、受け止めるようにしています。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	新型コロナウイルスについては色々勉強し予防策を取りましたがそれ以外については定期的には学んでいません。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内マニュアルに沿って対応していますが訓練はしていません。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	医療機関や行政からの情報、社内の指示に従っています。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	特に新型コロナウイルスの流行に随時対応しています。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員や入居者は日頃より徹底しています。外部からの面会者や業者にもウイルスを持ち込まないようにマニュアル通りにしています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	入居者様の第二の家族のように心掛けていただけるような関係を築けるように努力しています。	/	/	/	現在はコロナ禍で、外出行事は自粛しているが、管理者等は、以前のように家族と一緒にいちご狩りやぶどう狩り、外食などに早く出かけられることを願っている。利用者の日々の様子は、毎月手紙に写真を沿えて送付しているほか、2か月に1回の写真を多く取り入れた事業所便りも送付している。運営推進会議に参加している家族もいるほか、会議録を家族全員に送付し、会議の意義や内容を理解してもらえるよう努めているが、詳細な理解までには至っていないところがある。家族から要望を伝えやすいように、来訪時に職員は笑顔で声をかけ、気軽に相談ができるような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	新型コロナウイルス以前は来所可能な状態にしていました。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	新型コロナウイルス以前は外出時等お誘いすることもありました。	/	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月中旬に写真付きのお手紙を出し近況を報告しています。また、2か月に1度「よしこ便り」を発行しています。	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	来所時や電話対応などでその都度説明し納得いただいています。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	フェイスシートやお話の中から把握して、関係を邪魔しないように努めています。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	来所時に説明しています。	/	x	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	外出時にお誘いすることもありましたが、新型コロナウイルス流行後はありません。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	△	入居者様の行動から予測できる過去のリスクをお話するパターンもあります。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	来訪時には必ずお声かけし気軽に話しかけていただく関係を築くようにしています。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居時に重要事項の説明を行い、ご理解と納得いただいたうえで契約をさせていただいています。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ご本人のことを最優先に考えたうえでしっかり話し合いをして退去先に移れるように支援しています。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	改定時に文書で示し送付しています。電話でも説明します。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議の際や地区の交流のときなど、顔見知りや知り合いが増えそれに伴い事業所への理解が深まっているように思います。	/	◎	/	事業所として町内会に入会し、松山市広報や回覧板を回してもらっている。職員は、積極的に地域の公園の清掃や溝掃除、ゴミ出し、地域行事などにも、参加協力をしている。運営推進会議には、町内会長や老人クラブ会長、民生委員などの参加もあり、意見交換ができています。また、近隣住民と挨拶を交わし、気軽な関係づくりに努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	新型コロナウイルスが流行する前は、地域の行事や祭りごとに参加していました。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	公園に行ったり散歩の途中で話しかけてくださる方もいらっしゃいます。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	以前ご入居されていたご家族の方が近所なので、果物や佃煮をもって話しに来てくださる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	気軽に声を掛けてくださったり、掛けたりはしていますが立ち寄っていただくまでには至っていません。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	働きかけは行っていません。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	地域資源を把握し楽しむことはできていません。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	毎日の買い物は地域のスーパーを利用しています。スーパーの方とは仲良くなり施設のことを理解してくれています。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	ご家族の参加が少なくとも2組はあります。町内会長、老人会長、民生委員の方も参加してくれています。	/	◎	○	運営推進会議は、民生委員や老人クラブ会長、町内会長、市担当者、地域包括支援センター職員、家族等が参加して、隔月で1回、土曜日の午前に開催している。家族の参加に関しては固定化が見られるため、利用者の参加も合わせて検討することを望みたい。会議では外部評価の結果や活動報告がされ、参加家族から「職員の名前を知りたい」という意見が出され、ユニットの入口には写真入りの本日の出勤職員を貼り出す対応をしている。会議録は、全ての家族に送付することができている。現在のコロナ禍で今年3月と5月、11月の会議は書面で開催しているが、7月と9月は会議を実施できている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	写真付きの便りを見ていただきながら例年と比較しながら報告しています。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	各分野の参加者より活動報告や意見を聞いてその後の取り組みを次の運営推進会議で報告しています。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	自然災害をテーマとして行った際は防災士を呼びお話をさせていただいたり、日用品を工夫1つで防災品にできる方法などを勉強しました。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	公表しています。施設にも手に取りやすいところに掛けています。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「この町で暮らし、地域の一員として生活していくことを支援します」と理念を掲げ地域の行事等に参加するようにしています。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	中央リビングの壁に貼って見やすくしています。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	人員問題もあるので、社内での研修に力を入れています。				法人の規模は大きく、事業所の運営等は部長や課長に任せられ、管理者が中心となり、職員の意見を取りまとめて報告している。管理者は、部長等に職員の意見を伝えたり、相談したりすることができる。管理者等は、リフレッシュ休暇や希望休を取り入れ、働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	未経験の職員が入ったときはOJTの研修を行っています。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は個々の努力や実績を把握できにくいと思います。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	外部研修や地域の事業所会に参加する機会がありますが、新型コロナウイルスの影響でできていません。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	人材確保が難しいのでとれていません。	◎	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	3か月に1度の委員会を開いて勉強したり、言葉遣いや具体的行為から意見発表したりしています。				定期的に社内研修を実施し、不適切な行為を発見した場合の対応方法を職員に周知している。虐待がニュースで報道されると、ミーティング時に職員間で話し合い、意識向上につなげている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	毎月のミーティング、カンファレンス時に話し合いをしています。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	職員間で注意を払って見過ごさないようにしています。又、発見時の対応についても研修時に伝えています。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	職員の体調管理の声掛けはしていますが、人材不足の為無理をさせている部分もあります。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	研修や資料の閲覧はできるようにしていますが、一人一人が正しく理解できているかは確認できていません。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3か月に1度話し合いの場をつくっています。また、1・2合同で研修会も開催しました。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	認知状態や病気の為、それ以上上げがをしないようにのご家族様の想いからの言葉と受け取り、拘束や施設をしない方向の話し合いをしています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	現在成年後見制度を活用している方はいらっしゃらないので、あまり熱心には学んでいません。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	ご家族からの相談があった場合は支援したいと思います。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	今まで制度を利用したい入居者様がいまいませんでしたが、連携をとれる体制が築けるように努力したい。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	施設内でのマニュアルを作成し、周知しています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	定期的な訓練は行っていませんが医師や看護師の手当てを手本にして身に付けています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	カンファレンス、ミーティングなどで必ず振り返りをして再発防止に努めています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	1人1人の認知レベルや日頃の行動などから予め事故防止にも努めています。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルがあり、それに基づき対応しています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルはありますが、今まで寄せられたことがないので対応したことはないです。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	今まで寄せられたことがありません。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	日々接している中で十分伝えられます。それ以外では運営推進会議等で伝えていただけます。				利用者からは、職員が日々の会話の中で意見を聞くほか、直接意見を伝える利用者もいる。家族からは、運営推進会議や面会、介護計画の説明時に意見や要望を聞いている。今回、毎日面会に来ていた家族の要望や相談を受け、期待に応えられるよう対応している。管理者はミーティングなどの機会に職員の意見を聞くほか、事前に意見や気づきなどを用紙に記載してもらい、平等に検討しながら業務に活かせるよう努めている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	来所時や電話連絡、その他運営推進会議でも伝えていただけます。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	適宜は行っていませんが、玄関先に意見箱を設置しています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者は来れないが、部長や課長が代行して話を聞いてくれます。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングで一人一人の意見を聞くようにしています。シフトが一緒のときもフランクに話ができる機会があります。運営については会議にあげて検討もしています。			○	

愛媛県グループホームハッピー余戸

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年に1度各人が目標を立てて日々取り組んでいます。自己評価については2年に1度この場をかりて取り組んでいます。				外部評価のサービス評価について、運営推進会議等での評価結果の報告が中心となっており、事業所の取組み状況のモニターにまでは至っていない。家族に運営推進会議の議事録を送付していることから、今後は、会議等を活用して目標達成計画の取組み状況などの経過を頻回に報告したり、家族や地域アンケートの内容を分かりやすく説明するなどの工夫を期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	結果から反省をしたり、現状の課題を見つけて目標を掲げています。よい機会になっています。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を真摯に受け止めて目標を掲げ、達成に向けて取り組んでいます。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価の結果は運営推進会議やご家族様へのお手紙の中で報告しています。モニターまでは行っていません。	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	成果の確認は行っていません。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害のマニュアルはありますが、津波・原子力はありません。ほかは周知しています。				年1回消防署が立ち合いをして避難訓練を実施するほか、年2回水害等を想定した訓練も実施している。訓練には、地域の防災士も参加している。運営推進会議や事業所連絡会では、災害について話し合う機会はある。事業所のある地域は、水害危険地域にも指定されていることもあり、難しい面もあるが早急に地域住民と協力関係を築くことを期待したい。また、設置しているAEDの活用方法などを含め地域住民が集まりやすい機会を設けるなど、継続して協力・支援体制を呼びかけ整えることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	×	様々な時間帯での訓練は行っていません。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消防設備や避難経路の確認はできていますが食料品の備蓄に至っていません。水は定期的に保管、交換しています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	事業所連絡会で話し合うことはありますが、地域住民とはまだ連絡を取れる間柄ではありません。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域のネットワークづくりに参加したことはありませんが、施設の訓練のときは地域の方にもお声かけて参加していただいています。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議のときに民生委員や老人会長に「いつでも相談して下さい」とのお声かけを続けています。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	運営推進会議のときにお声かけています。		○	△	運営推進会議の時に、地域住民等から相談を受けることはあるが、積極的な相談までは行われていない。ユニット「よしこ I」の管理者は認知症キャラバンメイトでもあり、その知識を相談支援などに活用する検討を望みたい。事業所として連絡会に参加したり、社会福祉協議会の人材育成や警察署等の「まもるくんの家」にも協力したりすることができている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	新型コロナウイルス以前には地域のボランティアや小学生との交流がありました。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	当社にも養成校があり、受け入れに協力していますが、近年はありません。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	社協の人材育成に協力しました。事業所連絡会にも参加しています。			○	